

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 8 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	榎戸敬介
研究課題	イベントと都市空間の変容				
研究キーワード	都市デザイン、公共空間、都市観光、テンポラリー・アーバニズム、placemaking, eventful city, eventalization	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究は、自身がこれまで行ってきたグローバル都市の変容および都市公共空間と文化の融合に関する研究を土台に、イベントと都市空間の創出と変化について都市計画・デザインおよび観光の学際的視点からその実態を明らかにするものである。今年度はイベントとアーバニズム・都市計画・都市デザインを学際的に探究する海外の主要な研究者を探し出し、その文献収集と読解を進めることができた。イベント自体ではなくイベントと都市の相互関係の解明に取り組む研究は、オリンピックなどの比較的大規模の計画的で組織的なイベントに焦点をあてる傾向があり、より非計画的・非組織的なイベントはテンポラリー・アーバニズムの概念で解明される傾向があることが分かった。文献調査はまだ継続中であるが、イベントを演出する都市の多様な公共空間の変容が、経験経済や文化消費、都市ガバナンスなどとの関連で、ポストインダストリアルあるいはポストモダンの現象としてグローバル都市の重要な都市課題であることを確認することができた。さらに、イベントの場としての都市だけではなく、都市自体がイベントとなって都市間競争を展開するという新しい発想を確認することとなった。また、現在の都市問題として注目される神宮外苑再開発は、本研究テーマの一つの事例として位置づけることが可能であり、本研究が現代のアーバニズムの理解促進に貢献し得ることを確認した。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

なし

【著書・論文 (査読なし)】

なし

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

文献収集

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

・短期公募在外研究員「ポスト・パンデミックにおけるグローバル都市中心業務地区の再創造」2024年7月～10月

・競争的プロジェクトB「ウォーターフロントにおけるテンポラリー・アーバニズムの現状と課題」2024年4月1日～2026年3月31日

本文は2ページ以内にまとめること)